

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172001059		
法人名	株式会社 アクティブケア		
事業所名	グループホーム ユニティー小樽 みやび館		
所在地	小樽市銭函3丁目297-5		
自己評価作成日	平成31年3月5日	評価結果市町村受理日	平成31年4月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開放感のある明るく広々としたリビングで、ゆったりとした流れの中、音楽を聴かれたり、TVを観たり、皆さんで談笑したりと、それぞれの生活ペースに合わせ過ぎて頂いております。
午前中は両館合同で、ラジオ体操や口腔体操、合唱に参加されております。天気の良い日はご近所への散歩に出掛けております。
午後からは壁飾りの作成や塗り絵、パズルや風船バレーなどを楽しまれております。
地域の交流として、毎月1回踊りボランティア、ハーモニカ演奏、カラオケレクなどが開催され、利用者様も一緒に踊られたり、歌われたりと楽しまれております。町内会の行事で敬老会や文化祭にも参加されております。町内会の方には、流しそうめんやご家族様も参加されてのバーベキュー大会の際、テント設営などの運営をご協力頂いております。
その他にも、2か月に1回ノアルコールビールを楽しむのりの会を開催し、美味しいお寿司やおつまみを召し上がりながらノアルコールビールを楽しまれております。銭函大山さんやレストラン太郎さん、寒寒イオンへの外出、オーズゆり園や潮祭り、雪明りなど、季節の応じて外出して頂き楽しんで頂いております。また利用者様の希望をお聞きし、コンサートや札幌雪祭り見学、教会でのミサなど個人レクも行い喜んで頂いております。
利用者様が笑顔で穏やかに過ごせる様に支援しております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&JigyosyoCd=0172001059-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成31年3月22日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

銭函の札幌寄り国道沿いにある平屋建ての事業所である。屋内は広々として共有スペースの天井が高く天窓から明るい日差しが差し込んでいる。浴室やトイレ、共有空間、居室まで綺麗に清掃されており広いリビングには利用者が集い、頻繁に来訪のあるボランティアと交流したり職員と歌やゲームを楽しんでいる。食材は調理済みが搬入され、事業所で主食と汁物のみ調理をすることで職員は、利用者はどう暮らして望むのかを考え、個々に寄り添う時間が増えている。入浴も利用者ごとに入浴後の浴槽消毒をして湯を張替えるなど衛生的に留意した暮らしをしている。小樽グループホーム連絡協議会が主催している接遇マナー研修や、地域交流の取り組みで市内の他施設の見学を含めた交流に毎回参加し、事業所の改善点を考えているなど、積極的な取り組みをしている。職員は多様な研修や学習の機会があり、高齢者に対する尊厳を尊重した介護をしており、年に2度の消防訓練の際もAED操作を含めた救命救急講習を受講している。管理者は職員と個人面談を行い、目標の達成度の確認を表を用いて話し合い、助言をしながら個々のモチベーションに沿ってスキルアップを図っている。管理者はじめ職員は利用者が心穏やかに安心して暮らすことができるように生活を支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(みやび館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員全員が周知し、利用者様が自分らしく生活ができるように日々考えながらケアにあたっている。毎日朝礼で唱和し職員間で共有し実践出来る様努めている。	理念は事業所のパンフレットと事務所の壁に掲示しており、毎朝の申し送り時に唱和し、会議の中でも話し合い、入社時の研修でも説明をしている。職員は理念に基づいて利用者が「自分らしく」生活できるよう支援をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月の地域の踊りやハーモニカボランティア、カラオケの来訪の他に運営推進会議や行事への参加や招いて交流をしている。地域の定例会や事業所交流会に参加し交流している。	地域の子供神輿が立ち寄ったり、事業所のバーベキューや流し素麺に地域住民が参加している。地域の福祉関係の事業所と相互訪問し、交流をしている。日々の散歩で住民と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	普段のケアで考えたこと以外にも研修に参加し知れた知識を役立てるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回のペースで行い、ホームでの報告事項や訪問看護師によるお話し、他に地域の方からのご意見を伺いホームの質の向上に努めている。また身体拘束・虐待防止委員会を開催しホームの取り組みなどを報告している。	年4回開催の運営推進会議は地域包括センター職員、町内会長、民生委員、家族数名と職員が出席し事業所の報告や食事試食会、避難訓練、感染症などの議題で開催されている。議事録は全家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村関係者に運営や現場の実情を伝え、利用者様や職員と交流が図れるように努めている。	社会福祉協議会で小樽の施設事業所間の相互研修があり、毎回出席をしている。入居希望者からの相談で市内以外に希望があった際は市へ出向いて確認をして希望者へ回答をしている。保護課が利用者の定期訪問に来た際も話し合っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回運営推進会議の中で身体拘束虐待防止委員会があり、身体拘束がないように取り組んでいる。ホーム内に身体拘束のマニュアルをのせ周知に努めている。毎月のユニット会議の際、身体拘束・虐待委員が中心となり勉強会を開催し予防に努めている。	事業所の事務室に禁止の対象となる11項目を張り出し、毎朝声に出して確認しており職員は身体拘束における弊害を熟知している。介護職員の接遇マナーや事例を含めた研修、毎月のユニット会議でも説明しており、職員のセルフチェックも行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様に外傷などみられた場合は、早急に原因を確かめ、再発防止に努めている。研修や勉強会へ参加し防止に努めている。毎朝朝礼で、禁止とされる身体拘束11項目を唱和し常に意識出来る様にしている。		

グループホーム ユニティー小樽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(みやび館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会を持ち、制度を必要とされる利用者様がいる場合は、随時職員に説明やアドバイスをを行いこれらを活用し支援できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は十分に時間をとり丁寧に説明するように努めている。料金面や重度化のリスク、理念に基づいたケア内容などはくわしく説明し、不安や疑問点を尋ね、納得された上で手続きを進めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日のコミュニケーションの中から利用者様の思いを汲み取れるように努力している。また3か月に1度ケアプラン更新の際、計画作成担当者が利用者様の要望など汲み取れるようお話を伺っている。	全体の事業所の行事や暮らしぶりと、利用者ごとに家族宛お便りを出している。個人別の家族相談表があり、面会時や電話連絡の内容を記録している。家族訪問時には日々の暮らしぶりを説明している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体会議にて意見、要望を聞いている他に、日頃からのコミュニケーションを大切にしている。年に2回個別の面談を行い本音を引き出せる機会を設けている。	職員同士が話し合える雰囲気があり、相談事や困りごとスムーズに解決に結び付けている。管理者は面談で職員の目標達成の確認や助言をし、職員のステップアップを応援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や成果について把握し、それらをもとに評価を行っている。職員の意欲が高まるよう職員の意見は大切にするように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修の他に、小樽のGH間の研修やその他研修にも参加している。1カ月、3カ月、1年ごとに目標を設定を行い自己啓発を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH間の研修に参加しホームとの違いの良い面、悪い面を理解し活かせるように取り組んでいる。小樽のGH間や地域の交流の機会には参加し意見の交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(みやび館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			(みやび館)		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談で生活状態をしっかりと把握できるように努め、利用者様のホームでの生活に求めている理想の暮らしに近づけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを把握し必要な助言やホームでの対応をどのようにしていくかを話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思いや状況を把握し、その時点で何が必要かを見極め、改善にむけ必要なサービスの提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同作業の場を多く持つように心がけ、利用者様と喜怒哀楽を共有し、ともに支えあえる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の生活状況を把握し細かくご家族に伝えられるようにしている。ご家族の意見もいただきながらよりよいケアに繋げていく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的な電話や訪問など継続的な交流ができるように支援する。情報交換が密に行え、利用者様を支援するよう協力関係が築けている。	家族と墓参りや法事に出たり、年末の一時帰宅や馴染みの理美容院に行っている。友人や同僚、サークル仲間、信仰つながりの知人が事業所に来訪の時は、お茶を提供し居室でゆっくり過ごせるように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同作業やレクリエーションや談話を通じ、利用者様間でコミュニケーションがとれるように支援している。		

グループホーム ユニティー小樽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(みやび館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方も行事に招待したり、移られた施設に伺い様子を拝見するなど、継続的な関係が築けるよう努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント(みやび館)					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の談話のなかから思いを汲み取り、希望に沿った生活ができるように支援する。入居前の情報も踏まえより近い生活にできるように努めている。	暮らしの情報シートに追記更新している。全員のフェイスシートを整備し、連絡事項ファイルに変化を記録している。計画作成担当者がアセスメントシートの定期更新をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮し、ご本人やご家族から聞き取る機会をもっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様との会話の中などからご本人の生活のペースや気持ちの理解に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を通じユニット会議で意見交換を行い、利用者様主体の介護計画の作成に努めている。	入居時は1か月の短期で見極め、以後は3か月ごとの介護計画が作成されている。介護度が変更になった場合も迅速に計画の見直しをしている。担当職員がモニタリングを行い原案を作成し、計画作成担当者が確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録の記入や経過記録を行い、どのようなケアが本人に沿ったケアかを確認しながらよりよいケアに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族の状況に応じて往診、通院に対応している。可能な範囲で負担となる受診の回避や医療処置を受けながらの生活の継続など、ご本人やご家族の要望を軸に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との接点を見出し、警察や消防などとの連携やボランティアへの協力を呼び掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回協力医の往診の他に利用者様、ご家族が希望する医師の医療を受けられるように、ご家族と協力して通院介助を行うなど支援している。	家族対応の受診は結果の連絡をもらい、医師に説明の必要がある場合は職員も同行している。週に2度看護師が訪問し、訪問看護記録に記入している。受診記録も利用者ごとに整備している。	

グループホーム ユニティー小樽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(みやび館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回訪問看護師が来訪し相談や処置を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師やご家族と情報交換をしながら回復状況を把握し、職員が見舞うようにしている。ホームで対応可能な段階で早く退院できるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う対応の変化について、ご本人やご家族の意向を確認し、方針や支援を話し合い、納得したケアを受けられるよう努める。	往診を受けている利用者は、医師の判断で看取りまでの対応が可能であり、何をしてほしいかの確認をしている。職員は看取りの研修や処置を行い、看取り後の振り返りもしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回の救命救急を行い、緊急時対応についてのマニュアルを整備し周知徹底を図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力で「より、救命救急、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方」の訓練を定期的に行っている。ホームにて町内会の方々の避難訓練を行っている。	消防署員、町内会役員、家族なども参加して5月と9月に夜間想定避難訓練をしている。職員は訓練後に救命救急訓練の受講もしている。災害備蓄品は不足分の補充もしているところである。	独歩や杖、車いすなど利用者ごとに違いのある避難時の誘導方法を即座に判断できる工夫と、トイレや入浴の介助中を想定して個別の対応について話し合うことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 (みやび館)					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに気をつけ、丁寧な声かけを心がけている。	研修で接遇を学んだり、外部講師の訪問による接遇評価をもとに、言葉遣いを意識して対応している。職員は利用者優しく話しかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話から思いを汲み取り、本人に決定しやすいように努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本意ではなくあくまでも利用者様本位ということを忘れず、希望に沿って生活を支援する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床じや就寝時には本人に選んでいただき更衣できるように支援します。		

グループホーム ユニティー小樽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(みやび館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の食べやすい形態で提供し、食事時には職員も一緒にすることで会話を増やし楽しい食事の時間が作れるように努めている。	届く調理済みの料理を温めて提供している。誕生日や行事には出張ラーメンや好みの弁当を取り寄せたり、お菓子バイキングを楽しんでいる。外食レクで5か所程に出かけ好きな料理を選んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは栄養士が立てており、バランスのとれた食事を提供している。栄養が足りない利用者様には栄養補助食品も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けや仕上げ磨きのお手伝いを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンがわかるようにケース記録に記入を行い、本人のペースでトイレに行っていたできるように声かけを行っている。	排泄記録で排便などもチェックし、利用者に合わせて羞恥心に配慮しながら声かけや誘導を行っている。自力でトイレに行く場合はそれとなく見守り、下着類も個々に沿って使用している。介助では間隔を見て誘導し、失敗がないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ケース記録で排便の記録を残し、便秘気味の利用者様には水分の促しや、食物繊維の多い食品の提供や朝に牛乳を飲んでいただいている。ラジオ体操などの軽い運動を行い、自然排便ができるように努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様のペースに合わせて入浴していただき、声かけを行っている。	日曜を予備日とし、午後の時間帯に週2回の入浴を支援し、湯温や入浴剤使用量などの希望に応じている。身体的な状態で2人介助やシャワー浴で対応している。一人ひとり湯を交換し、湯船に浸かりながら気持ちよく入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様により就寝時間は決まっておらず、本人に合わせて都度声をかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を職員が周知し、変更時にもすぐに周知ができるように努めている。副作用も理解し利用者様の変化には注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野を生かせるように、食事作りや後片付け、掃除など、負担にならない範囲で役割を担っていただいている。歌が好きな利用者様に行事などで歌っていただける機会を作り楽しみを増やしている。		

グループホーム ユニティー小樽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(みやび館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出や散歩や外気浴を定期的に行い外の空気を吸いリフレッシュできる機会を設けている。遠い外出時はご家族にも協力していただきながら行っている。	散歩コースで周囲の住宅庭の花壇や春には桜の花をみて季節を感じている。外出行事では法人所有の農園でいちご狩りをしたり、毎年のように小樽市の観光地やイベントに出かけている。冬期も雪明かりや初詣などで外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が難しい利用者様にも少額を所持していただいたり、できる方には買い物時に利用者様が支払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じ、日常的にいつでも電話や手紙が出せるように支援している。必要に応じてスタッフが手紙の代筆をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や利用者様の手作りのものを飾ることで落ち着いて過ごせるようにしている。	居間は天窓から光が入り、明るく広々として開放感がある。食卓テーブルから離れた場所に団欒ができるソファ席を配置し、テレビを観ながら寛げる空間となっている。壁には好きな人と自分の顔写真を並べて紙細工で作った雛人形などが飾られており、ほのぼのとした温かい雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブル、ソファで音楽やテレビや新聞を読むなどご自分のペースで過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好みのものやなじみのある物を使用いただいている。	居室にはクローゼットや温湿度計が備えてあり、家具や小物類、仏壇などが持ち込まれている。自宅と同じように家具類を配置したり、本人の気懸りなことに沿って居室づくりを工夫している。家族の写真などに囲まれて安心できる室内になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、リビングなどの居住空間が適しているか、利用者様の状況に合わせて手すり等を設けて安全を確保し自立への配慮をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172001059		
法人名	株式会社 アクティブケア		
事業所名	グループホーム ユニティー小樽 かえで館		
所在地	小樽市銭函3丁目297-5		
自己評価作成日	平成31年3月5日	評価結果市町村受理日	平成31年4月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開放感のある明るく広々としたリビングで、ゆったりとした流れの中、音楽を聴かれたり、TVを観たり、皆さんで談笑したりと、それぞれの生活ペースに合わせ過ぎて頂いております。
午前中は両館合同で、ラジオ体操や口腔体操、合唱に参加されております。天気の良い日はご近所への散歩に出掛けております。
午後からは壁飾りの作成や塗り絵、パズルや風船バレーなどを楽しまれております。
地域の交流として、毎月1回踊りボランティア、ハーモニカ演奏、カラオケレクなどが開催され、利用者様も一緒に踊られたり、歌われたりと楽しまれております。町内会の行事で敬老会や文化祭にも参加されております。町内会の方には、流しそうめんやご家族様も参加されてのバーベキュー大会の際、テント設営などの運営をご協力頂いております。
その他にも、2か月に1回ノンアルコールビールを楽しむのりの会を開催し、美味しいお寿司やおつまみを召し上がりながらノンアルコールビールを楽しまれております。銭函大山さんやレストラン太郎さん、寒寒イオンへの外出、オーズゆり園や潮祭り、雪明りなど、季節の応じて外出して頂き楽しんで頂いております。また利用者様の希望をお聞きし、コンサートや札幌雪祭り見学、教会でのミサなど個人レクも行い喜んで頂いております。
利用者様が笑顔で穏やかに過ごせる様に支援しております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0172001059-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年3月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員全員が周知し、利用者様が自分らしく生活ができるように日々考えながらケアにあたっている。毎日朝礼で唱和し職員間で共有し実践出来る様努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月の地域の踊りやハーモニカボランティア、カラオケレクの来訪の他に運営推進会議や行事への参加や招いて交流をしている。地域の定例会や事業所交流会に参加し交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	普段のケアで考えたこと以外にも研修に参加し知れた知識を役立てるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回のペースで行い、ホームでの報告事項や訪問看護師によるお話し、他に地域の方からのご意見を伺いホームの質の向上に努めている。また身体拘束・虐待防止委員会を開催しホームの取り組みなどを報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村関係者に運営や現場の実情を伝え、利用者様や職員と交流が図れるように努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回運営推進会議の中で身体拘束虐待防止委員会があり、身体拘束がないよう取り組んでいる。ホーム内に身体拘束のマニュアルをのせ周知に努めている。毎月のユニット会議の際、身体拘束・虐待委員が中心となり勉強会を開催し予防に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様に外傷などみられた場合は、早急に原因を確かめ、再発防止に努めている。研修や勉強会へ参加し防止に努めている。毎朝朝礼で、禁止とされる身体拘束11項目を唱和し常に意識出来る様にしている。		

グループホーム ユニティー小樽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会を持ち、制度を必要とされる利用者様がいる場合は、随時職員に説明やアドバイスをを行いこれらを活用し支援できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は十分に時間をとり丁寧な説明するように努めている。料金面や重度化のリスク、理念に基づいたケア内容などはくわしく説明し、不安や疑問点を尋ね、納得された上で手続きを進めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日のコミュニケーションの中から利用者様の思いを汲み取れるように努力している。また3か月に1度ケアプラン更新の際、計画作成担当者が利用者様の要望など汲み取れるようお話を伺っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体会議にて意見、要望を聞いている他に、日頃からのコミュニケーションを大切にしている。年に2回個別の面談を行い本音を引き出せる機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や成果について把握し、それらをもとに評価を行っている。職員の意欲が高まるよう職員の意見は大切にするように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修の他に、小樽のGH間の研修やその他研修にも参加している。1カ月、3カ月、1年ごとに目標を設定を行い自己啓発を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH間の研修に参加しホームとの違いの良い面、悪い面を理解し活かせるように取り組んでいる。小樽のGH間や地域の交流の機会には参加し意見の交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 (かえで館)					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談で生活状態をしっかりと把握できるように努め、利用者様のホームでの生活に求めている理想の暮らしに近づけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを把握し必要な助言やホームでの対応をどのようにしていくかを話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思いや状況を把握し、その時点で何が必要かを見極め、改善にむけ必要なサービスの提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同作業の場を多く持つように心がけ、利用者様と喜怒哀楽を共有し、ともに支えあえる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の生活状況を把握し細かくご家族に伝えられるようにしている。ご家族の意見もいただきながらよりよいケアに繋げていく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的な電話や訪問など継続的な交流ができるように支援する。情報交換が密に行え、利用者様を支援するよう協力関係が築けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同作業やレクリエーションや談話を通じ、利用者様間でコミュニケーションがとれるように支援している。		

グループホーム ユニティー小樽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方も行事に招待したり、移られた施設に伺い様子を拝見するなど、継続的な関係が築けるよう努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント(かえで館)					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の談話のなかから思いを汲み取り、希望に沿った生活ができるように支援する。入居前の情報も踏まえより近い生活にできるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮し、ご本人やご家族から聞き取る機会をもっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様との会話の中などからご本人の生活のペースや気持ちの理解に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を通じユニット会議で意見交換を行い、利用者様主体の介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録の記入や経過記録を行い、どのようなケアが本人に沿ったケアかを確認しながらよりよいケアに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族の状況に応じて往診、通院に対応をしている。可能な範囲で負担となる受診の回避や医療処置を受けながらの生活の継続など、ご本人やご家族の要望を軸に対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との接点を見出し、警察や消防などとの連携やボランティアへの協力を呼び掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回協力医の往診の他に利用者様、ご家族が希望する医師の医療を受けられるように、ご家族と協力して通院介助を行うなど支援している。		

グループホーム ユニティー小樽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで館)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回訪問看護師が来訪し相談や処置を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師やご家族と情報交換をしながら回復状況を把握し、職員が見舞うようにしている。ホームで対応可能な段階で早く退院できるよう支援している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う対応の変化について、ご本人やご家族の意向を確認し、方針や支援を話し合い、納得したケアを受けられるよう努める。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回の救命救急を行い、緊急時対応についてのマニュアルを整備し周知徹底を図っている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力で「より、救命救急、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方の訓練を定期的に行っている。ホームにて町内会の方々の避難訓練を行っている。			
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 (かえで館)						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに気をつけ、丁寧な声かけを心がけている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話から思いを汲み取り、本人に決定しやすいように努める。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本意ではなくあくまでも利用者様本位ということを忘れず、希望に沿って生活を支援する。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床じや就寝時には本人に選んでいただき更衣できるように支援します。			

グループホーム ユニティー小樽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の食べやすい形態で提供し、食事時には職員も一緒にすることで会話を増やし楽しい食事の時間が作れるように努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは栄養士が立てており、バランスのとれた食事を提供している。栄養が足りない利用者様には栄養補助食品も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けや仕上げ磨きのお手伝いを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンがわかるようにケース記録に記入を行い、本人のペースでトイレに行っていたるように声かけを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ケース記録で排便の記録を残し、便秘気味の利用者様には水分の促しや、食物繊維の多い食品の提供や朝に牛乳を飲んでいただいている。ラジオ体操などの軽い運動を行い、自然排便ができるように努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様のペースに合わせて入浴していただき、声かけを行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様により就寝時間は決まっておらず、本人に合わせて都度声をかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を職員が周知し、変更時にもすぐに周知ができるように努めている。副作用も理解し利用者様の変化には注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野を生かせるように、食事作りや後片付け、掃除など、負担にならない範囲で役割を担っていただいている。歌が好きな利用者様に行事などで歌っていただける機会を作り楽しみを増やしている。		

グループホーム ユニティー小樽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで館)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出や散歩や外気浴を定期的に行い外の空気を吸いリフレッシュできる機会を設けている。遠い外出時はご家族にも協力していただきながら行っている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が難しい利用者様にも少額を所持していただいたり、できる方には買い物時に利用者様が支払えるように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じ、日常的にいつでも電話や手紙が出せるように支援している。必要に応じてスタッフが手紙の代筆をしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や利用者様の手作りのものなどを飾ることで落ち着いて過ごせるようにしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブル、ソファで音楽やテレビや新聞を読むなどご自分のペースで過ごせるようにしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好みのものやなじみのある物を使用している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、リビングなどの居住空間が適しているか、利用者様の状況に合わせて手すり等を設けて安全を確保し自立への配慮をしている。			

目標達成計画

事業所名 グループホームユニティ小樽

作成日：平成 31年 3月 30日

市町村受理日：平成 31年 4月 5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	独歩や杖、車椅子など利用者様ごとに違いのある避難時の誘導方法を即座に判断できる工夫と、トイレや入浴の介助中を想定して個別の対応について話し合う事を期待したい。	災害時の個別の対応を具体的に話し合い、即座に判断できるようにマニュアルを作成する。	利用者様個人別の避難時の誘導方法を、会議の中で話し合い即座に判断できる工夫をする。トイレや入浴の介助中を想定し個別の対応について、会議の中で話し合い、マニュアルを作成する。また、その内容を運営推進会議で報告しご家族様や町内会の方に周知して頂く。	6か月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。